

JRECO 通信

No.33



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機

I. フロン対策格付け表彰式・情報交流会を開催

【1.概要】

JRECOは、2024年6月17日に東京都港区の機械振興会館で「フロン対策格付け表彰式・情報交流会」を開催しました。

本イベントは、JRECOが実施している『フロン対策格付け』においてAランク評価を受けた企業様に表彰状を授与する式典を行い、情報交流の場を設けることで、フロン類機器管理の適正化に向けた取り組みをさらに推進することを目的としています。

当日は、環境省・経済産業省や東京都など関係機関からご来賓をお迎えし、22社の皆様がフロン格付けAランク表彰を受けました。

表彰式に続いて行われた情報交流会では、参加者同士が活発な意見交換を行い、フロン排出抑制に向けた更なる連携強化に繋がる貴重な機会となりました。



JRECOは、今後もフロン排出抑制に向けた取り組みを積極的に推進し、地球温暖化対策に貢献してまいります。

【2.フロン対策格付けについて】

フロン対策格付けは、プライム上場企業（1653社）の統合報告書やCSRレポートなどの公表資料により、フロン排出抑制法・算定漏洩量・簡易点検・定期点検などの記載の有無を確認し、JRECO独自の視点と基準で事業者ごとの取り組みや対策の状況を格付けし、当機構のホームページ等で公表することで、フロン類機器管理の適正化を図ることを目的とした制度です。

この取り組みは、2021年度以降3年間にわたり実施してきており、格付けは、A～Eの5段階で評価され、最高位のAランクはフロン排出量・排出抑制対策の状況が特に優良な事業者に与えられます。1回目は16社、2回目は49社、3回目は76社とAランク企業が増えてきており、今回のその荣誉に輝いた企業様に当機構から表彰をさせていただきことし、全国から22社をお迎えしました。

【3.当日の様様】

■ フロン格付けAランク表彰式

JRECOの是常博理事長の挨拶の後、22社に表彰状が授与されました。



また、表彰したAランク企業を代表して、旭化成株式会社様より「JRECOの管理システム『RaMS』」で更なる

漏洩対策に取り組んでいる」などと自社の取組みを紹介するスピーチを頂きました。



■ご来賓祝辞

ご来賓のうち 環境省、地球温暖化対策課、フロン対策室 室長 香具輝男様および東京都環境局 環境改善部 環境保安課 課長 西脇勇二様より、祝辞を頂きました。



ご両名からは、フロン排出抑制に向けた取り組みへの激励のお言葉を頂きました。

■ 情報交流会

A ランク表彰を受けた企業様を含め約 100 名の参加者同士が活発な意見交換を行い、フロン排出抑制に向けた更なる連携強化に繋がる貴重な機会となりました。



【4. 今後の展望】

JRECO は、限られた HFC 冷媒を適切かつタイムリーに管理するために 専門人材の育成（資格認定事業）とともに、冷媒管理システムの導入推進（RaMS 事業）を推進し、今後とも冷媒に係る社会の要請に応えることができるよう、関係者各位と連携してまいります。

II. 江戸・東京の歴史を訪ね歩きませんか（大手町から四ツ谷）

今回は南町奉行所与力 石川乙次郎が大手町から四ツ谷を紹介させていただきます。

大手町駅出口 C14 を出て直ぐに三井住友銀行本店東館があり、旧江戸幕府評定所があったところです。

評定所は江戸幕府の最高裁判所ともいうべき司法機関です。将軍、老中の施政の諮問機関の一種の役割をも兼ねました。その存在は幕府創設後かなり早くから認められましたが、1635年（寛永12）に規則が初めて成文化されました。構成員の中心は寺社、町、勘定の三奉行で、これに大目付、目付が審理に加わり、勘定所からの出向者を主とする留役（とめやく）（書記）が実務を担当しました。初期には老中も出席しましたが、1660年代（寛文年間）ごろに寄合（会議）が式日（しきじつ）、立合、内寄合（うちよりあい）の3種に分かれて、老中は式日にのみ出席することになり、さらに1720年（享保5）からは月1回出席となりました。また側（そば）用人、側衆あるいは江戸出府中の所司代や遠国（おんごく）奉行が評席に参列することもありました。このほか右筆（ゆうひつ）、目安（めやす）（訴状）読みの儒者、勘定衆、徒（かち）目付、台所方、料理方、坊主、小人目付、評定所留守居、町与力、町同心、石出帯刀（いしでたてわき）（牢役人）、町年寄が詰めました。寄合は初期には老臣邸で催されましたが、1657年（明暦3）の大火後、竜（辰）の口（現、丸の内1丁目）の伝奏（てんそう）（公武の連絡を担当する公家）屋敷が焼け残ったのでこれを用い、その後その敷地内を仕切り、評定所を建てました。



次に永代通りを400m東に進み呉服橋交差点手前を右折し、100m位行くと北町奉行所跡があります。

北町奉行で有名なのは遠山左衛門尉景元（とおやまさえものじょうかげもと）です。

有名な「遠山の金さん」こと遠山景元は、江戸時代後期の1840年（天保11）～1843年（天保14）年の間、27代目の北町奉行を務めています。



北町奉行所跡

さらに100m位行くと右に東京駅地下連絡通路に出るのでそこを通ります（約400m）。地下通路を出ると右側に丸の内オアゾが見えます。昔は細川越中守のお屋敷です。

丸の内オアゾの角を左折すると右に新丸の内ビルが見えます。昔は阿部正弘邸でした。そのまままっすぐ進むと右に丸の内ビルが見えます。昔は鳥取藩池田家屋敷でした。



丸の内オアゾ



新丸の内ビル



丸の内ビル

丸の内ビルの角を右折し真っ直ぐ行くと日比谷通りに出ます。左折し、馬場先濠の景色を堪能しましょう。

このあたりはヤン・ヨーステンの名にちなみ八重洲河岸と呼ばれました。

馬場先門交差点を左折し、行幸道路を進み、東京国際フォーラム西交差点を右折します。この道が江戸のメインストリート、大名小路で有楽町駅にぶつかります。



大名小路の現在



馬場先濠

ぶつかった所（中央口・銀座口）は僕が当時、出仕していた南町奉行所跡です。

南町奉行といえば大岡越前守忠相（おおおかえちぜんのかみただすけ）が有名です。八代将軍・徳川吉宗公が進めた享保の改革を町奉行として支え、江戸の市中行政に携わったほか、評定所一座に加わり、関東地方御用掛（ごようかかり）、奏者番（そうじゃばん）、寺社奉行を務めました。



僕が出仕していた時は池田播磨守頼方（いけだはりまのかみよりまさ）様がお奉行でした。

山手線を新橋方面に沿って行くとなぜかゴジラがいます。東宝日比谷ビルの「合歓の広場」に東宝のスターということで鎮座しています。



200m位で右折すると日比谷交差点が見えます。日比谷交差点に日比谷門の石垣と濠の一部が見えます。



日比谷濠に沿って 500～600m進むと桜田門に着きます。

桜田門は大老井伊掃部守直弼（たいろういいかものかみなおすけ）様が幕末に水戸浪士らに暗殺されたところです。（JRECO 通信 028 参照）



桜田門を左折し、警視庁を過ぎ、総務省の角を右折すると総務省と外務省があり、昔は浅野家、黒田家でした。

200mほど直進すると六本木通りにぶつかるので右折します。150mで内堀通りにぶつかるので左折。国会前庭を見学しましょう。

国会正門前を右折し、憲政記念館に出ます。ここは旧井伊家上屋敷です。



国会前庭



写真手前は筆者で、後ろに小さく写っているのは友人のファットマンS氏

憲政記念館は1970年（昭和45）に我が国が議会開設80年を迎えたのを記念して、議会制民主主義についての一般の認識を深めることを目的として設立され、1972年（昭和47）3月に開館しました。

敷地には日本水準原点や電子基準点、江戸の名水：櫻の井があります。ここもJRECO通信028で紹介しました。

憲政記念館を出て、来た道を左折します。参議院の前を通り左折、約300m直進後右折、500m位で日枝（ひえ）神社に出ます。JRECO通信029で参拝しましたが再度参拝しましょう。日枝神社は鎌倉時代に江戸氏が山王宮を祀り、さらに文明年間（室町時代応仁年間の後）、太田道灌が江戸城内に川越から山王社を勧請して今に至る日枝神社の礎を作りました。1590年（天正18）に徳川家康公が江戸城を居城とするにあたり、「徳川家の守り神」「江戸の産神」として敬われました。その後、江戸城の拡張に伴い麹町隼町に遷り、そして1659年（万治2）に現在の永田町の地に遷りました。



日枝神社

江戸城が皇居となったことで、日枝神社は皇居の守り神「皇城の鎮」として崇められています。

日枝神社を出て元の道に戻り、真っ直ぐ行くと外濠通りに出るので、右折します。500m位行くと首都高4号線に出るので右折します。100m位で赤坂御門の石垣が見えます。ここもJRECO通信029で紹介しました。

赤坂御門石垣を左折し、諏訪坂（プリンス通り）を500m位行きます。厚生会館ホテル手前を右折し、400m位で平河天満宮に出るのでここも参詣しましょう。平河天満宮は太田道灌（おおたどうかん）が川越から勧請した由緒ある神社です。徳川幕府を始め紀州、尾張両徳川家、井伊家等の祈願所となり、新年の賀礼には、宮司は将軍に単独で拜謁できる格式の待遇を受けていました。主祭神は天満宮なので菅原道真公です。



平河天満宮



平河天満宮を出て、すぐ左折 300m位で甲州街道に出ます。右に行くと半蔵門に突き当たります。

半蔵門の右側を見ると桜田濠が綺麗で、大手町方面が見渡せます。神君家康公は甲州街道からここに 1590 年（天正 18）八朔の日（旧暦八月一日）に入府。江戸を見渡して



半蔵門



落胆したらしいですが、今はその面影はありません。ここも JRECO 通信 028 で紹介しました。

甲州街道を西に 1k m位で四ッ谷駅に出ます。歩き疲れています、甲州街道を四ッ谷駅から 300m位で江南亭という店の手前を左折します。200mで西念寺（さいねんじ）に着きます。ここは服部半蔵を開基とし、家康公の長男の信康の供養塔があります。



服部半蔵の檜



西念寺の近くに戒行寺（かいぎょうじ）があります。戒行寺は鬼平犯科帳で有名な火付盗賊改方（ひつけとうぞくあらためかた）長谷川平蔵宣以（はせがわへいざうのぶため）の菩提寺です。



長谷川平蔵の墓

戒行寺を出て西に 300m位で於岩稲荷（おいわいなり）田宮神社と於岩稲荷陽運寺があります。

「田宮稲荷神社は、於岩稲荷と呼ばれ四谷左門町の御先手組（おさきてぐみ）同心田宮家の邸内にあった社です。

初代田宮又左衛門の娘お岩(1636 年（寛永 13）没)が信仰し、養子伊右衛門とともに家勢を再興したことから「お岩さんの稲荷」として次第に人々の信仰を集めたようです。

鶴屋南北の戯曲「東海道四谷怪談」が 1825 年(文政 8)に初演されるとさらに多くの信仰を集めるようになります。

戯曲は実在の人物からは約 200 年後の作品で、お岩夫婦も怪談話とは大きく異なり円満でした。(後略)」と解説書きがあります。



右側が於岩稲荷田宮神社、左奥が於岩稲荷陽運寺

道路を挟んで反対側にある、やはりお岩さんを祀った「於岩稲荷陽運寺」があります。「於岩稲荷田宮神社」に比べると、ずいぶんと派手な感じがします。

こちらは、「於岩稲荷田宮神社」の人気にあやかり建立、さらに「東海道四谷怪談」の大ヒットを受け、興盛したお寺のようです。今は縁結びの神様として人気を集めているとのこと。



於岩稲荷陽運寺

甲州街道に戻り、四ツ谷四丁目交差点を渡り北西方向 200m新宿区立花園公園を目指し、長善寺（笹寺）に向かいます。ここは徳川二代将軍秀忠（ひでただ）公の正室お江のゆかりの寺でめづる観音像が有名です。この観音像は赤めので彫られた珍しい観音菩薩像で高さ 4.9センチですが容貌は豊麗で精密な作品です。本像はお江（崇源院）から賜りました。



再度、甲州街道に戻り、四ッ谷四丁目交差点の四ッ谷大木戸跡、玉川上水水番所跡を見て終了しましょう。約 23 km歩きますがチャレンジしていただければ幸甚です。



四ツ谷大木戸跡



Ⅲ. 作井正人の米国駐在記

すこし昔の話にはなりますが、私が 2003 年～2006 年の 3 年間、カリフォルニア州の Irvine 市で過ごして感じたことを連載します。アメリカ文化とアメリカ人氣質を理解して頂けるきっかけになって頂ければと思います。

<MCAS ミラマー・Air show>



Blue Angles (Navv Jet Demo Team)

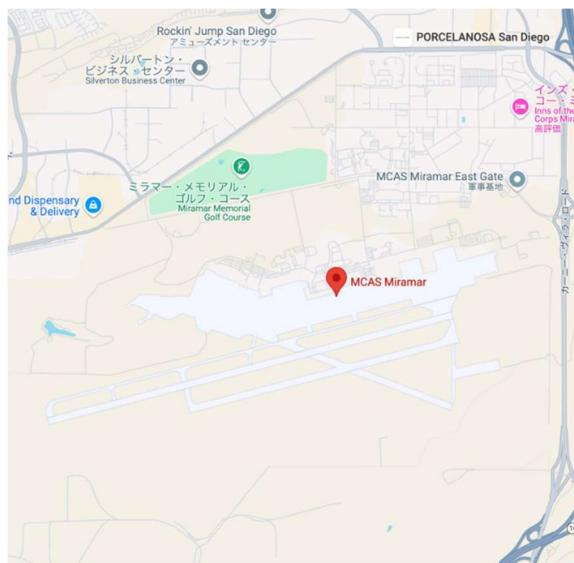
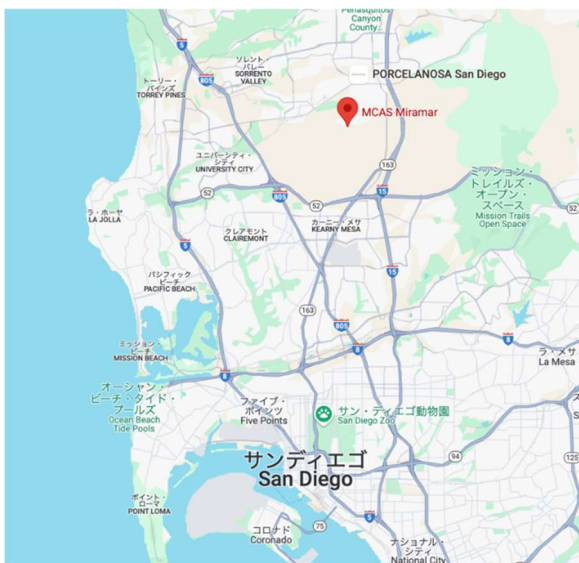


JBA（南カルフォルニア日系企業協会）から航空ショーの案内があり、家族分を申し込んだ。航空ショーは 10 月 17 日、サンディエゴのミラマー海兵隊飛行基地 (Marine Corps Air Station Miramar) で行われた。

ちなみに、このミラマー基地は 1986 年公開映画『TOPGUN』の頃は、エリートパイロット養成所「TOPGUN/アメリカ海軍戦闘機兵器学校」がこのミラマー基地にあったので、ここが映画の舞台になっていた。現在はラスベガスに近いファロン海軍航空基地に移転したとのこと。

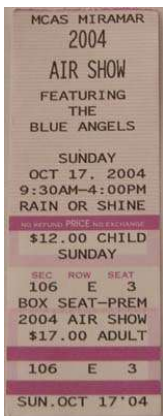
この年の南カルフォルニアは異常気象で雨が多く、当日家を出るときはカルフォルニアでは珍しい土砂降りだった。昨年、この時期には雨が全くなく、空気が乾燥してあちこちで山火事が多発して

いた。運良く、5号線を走りサンディエゴに近づくにつれて、雨は止み曇天となり、サンディエゴ手前約10km地点で5号から805号線に乗り換えて2kmばかり行くと基地への入口への案内が見えてき



た。基地入り口で、若い兵隊さんにチケットを見せると、敬礼し、丁寧に案内をしてくれた。

駐車場まで多くの若い“兵隊さん”たちがキビキビと我々を誘導してくれる態度には好感がもてる。



チケット、2004年10月17日(日) 9:30~16:00 雨天決行 高校生(子供料金12ドル)、大人:17ドル。ボックスシート



超大型長距離輸送機ギャラクシー

会場には多くの飛行機、ヘリコプターなどが展示されショーが始まる前に観客が見入っていた。



ゼロ戦と戦ったP-51 ムスタング

航空ショーを見るのは初めてだったが、迫力のある内容だった。

まずは、航空ショーでありがちなアクロバット飛行で始まり、広大な基地を使った戦闘シミュレーション、ジェットヘリなど目の前で見ると迫力が凄かった。観客を飽きさせないような演出が組まれていた。どれもこれも圧巻な演技だった。マッハ2の迫力を体験してもらおうと案内放送があった。そのあと、F-16 Falcon が低空で観客席の目の前を通り過ぎた。通り過ぎたといっても、あっという間のことで爆音と映像が一致しなかった。F-16 が通り過ぎてから遅れてくる耳をつんざく衝撃波を体験した。F-16 が空中で高速旋回すると、空気との摩擦による爆音が轟き、旋回での圧力差により生ずる水蒸気に機体が包まれる迫力。間近で実物を見ると、迫力が映画とは全く異なる。



ヘリコプターによるシミュレーション



陸軍も参加して、目の前で戦車砲の実弾を撃った。目標に当たり砲弾が炸裂するとその炎が観客席まで熱線として伝わった、これも大迫力だった。

F-16 と第二次大戦中の P-51 ムスタングとのアクロバット飛行と模擬戦闘シミュレーションも凄かった。ヘリコプター以外のショーは広い基地の内外を使って飛行するので、視界から消えるまで飛び去り、それがあつと言う間に戻ってくる。これは、アメリカの広い国土だから成せる業。P-51 との模擬戦闘は F-16 にあつと言う間に追い越されてしまう、まるで大人と子供の戦いのようで観客を笑わせる。ところが、凄いのは、F-16 と背面飛行の P-51 が腹を合わせるように並んだ飛行。P-51 はせいぜい時速 700km 程度、F-16 の巡航速度はマッハ 2 (時速 2400km)。F-16 が遅い飛行機と速度を合わせて飛ぶのは難度の高い技術だとのことで、観客席からは大喝采だった。



ブルーエンジェلزの演技も圧巻だった、これを最後にショーは終わった。観客たちは、それぞれ自分の車のある駐車場へ向う道すがら展示されている飛行機を名残惜しく見入っていた。基地から出るのに結構な渋滞となつてはいたが、基地内での交通整理、ボックス席からの退場誘導は全て“兵隊さん”。丁寧な対応に好感が持てた一日だった。そして基地の Gate で帰り道を尋ねたら、やはり丁寧に教えてくれ、お礼を言うと「Sir, yes, sir」と最敬礼。さらに、車を発進すると、「Have a good night, sir」でした。

＜ダラスへの出張＞



JFKの暗殺現場



9月下旬にCentral Mgr.の陽気で冗談ばかり言うChrisとダラスへ出張となった。空港で待ち合わせて客先まで行くことにした。Chrisが「Sakui-san、JFKがここで暗殺されたのを知っている？」と聞いてきた。「知っているよ」と答えると、約束まで時間があるので見に行こうと言った。「OK」と言うと、彼は車を止めて、路面電車の切符を買ってくれた。Chris曰く、電車からでないとベストショットが撮影できないと……。その場所に近づくと「Sakui-san、写真！写真！」と言って、オズワルドがああビルから撃ったとの解説が始まった。Chrisはいつも親切に彼のアメリカを私に伝えてくれるのだった。



「電車に乗る前に切符を購入せよ」との表示

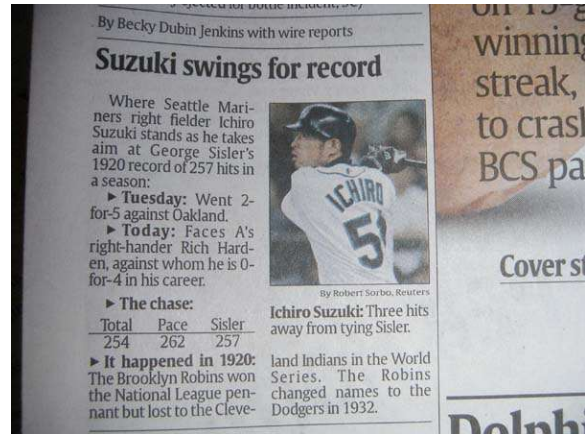


電車を待つ通勤客

サンディエゴの路面電車と同じように改札がないので切符がなくても乗車できるが、時々抜き打ちでチェックがあるとのこと。その時に切符を持っていないと罰金を科せられる方式となっているとChrisが説明してくれた。



ダラスのダウンタウン



ホテルで買った9月29日のUSA Today

ダラスは、アメリカとしては中程度の街の部類に入るだろう。高層ビルも見えるが、これはほんの一部でダウンタウンの大きさは500m四方程度かもしれない。路面電車があるので、サンディエゴと同じく比較的歩く街なのだろう。

その日、ホテルで買った新聞によると、イチローが28日に2本のヒットを打ちSislerの記録にあと3本に迫ると書いてあった。

<中国 vs 中共>

住んでいた家の近くに台湾系のモールがあった。Irvineには台湾人や台湾系アメリカ人が多く住んでいるので、モール内で台湾系の食材を扱っているスーパーは台湾系の住民で賑わっていた。私の借りていたPoinsettia 7の借家もオーナーは台湾系アメリカ人だった。

ある時、そのモールで中華人民共和国への抗議運動があった。中国国内での反日運動の激しさはアメリカでもニュースになっているが、台湾系の住民が反共産中国の運動をしているのには驚いた。

漢字で書いてあるので、何とか意味が分かる。台湾・国民党の陳水扁総統が中国の胡錦濤主席と会談に対しての抗議行動だろう。





退出共產党、
中國可愛
中共可惡

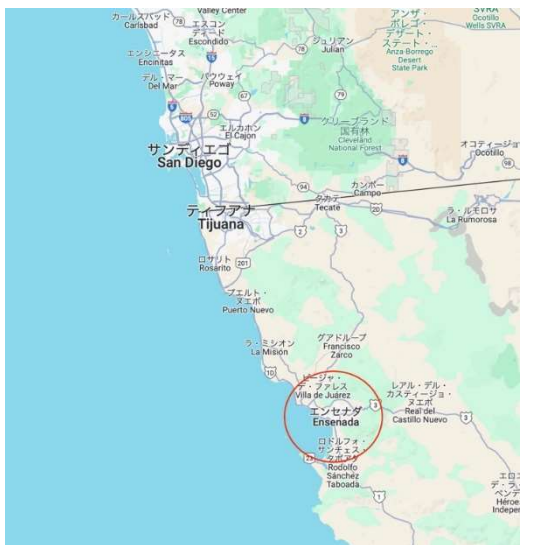


中国共産党の悪行三昧の歴史を語っている、反中共の「大紀元」。天安門事件のショッキングな写真など掲載していた。「大紀元」は台湾メディアの Epoch Times として現在も活躍中。

<メキシコ日帰り旅行>

私の帰国が6月末と伝えた頃、Ramon が私にメキシコに行かないかと誘ってくれた。彼はメキシコ系アメリカ人なので、自分の故郷に私を連れて行きたかったのだろう。私の車はメキシコでは保

険がカバーされていないので、彼の車で6月10日の土曜日に決行となった。サンディエゴは何度も訪れていたが、そこから先には行ったことがなかった。



当日朝早く Ramon が私の家に迎えに来てくれ、我々のメキシコ日帰り旅行が始まった。いつものように5号線でサンディエゴまで走り、そのまま5号線を走ること20分でメキシコへノンストップで入国してしまう。そこには、国境らしき標はあるがイミグレーションも何もない。ただし、帰りはパスポートがないと米国には戻れない。



国境らしき標がその先にある



あっという間にメキシコ領

国境の町ティファナはスペイン風の古い町だが、治安が悪いことで有名。我々は一度も車を降りずに通り過ぎた。メキシコ領に入った途端、道路の整備が悪く埃っぽいことが目に付く。海岸沿いの道を1時間半ほど走ると、目的地の Ensenada に到着した。

駐車場に車を止めると Ramon が真剣な顔で我々にアドバイスをくれた。「まず、駐車場のトイレで用を足す。次に、財布を前のポケットに入れて、物乞いには絶対金をやるな」だった。さっそく、みんなでトイレに向かった、臭くて汚かったが、Ramon 曰くレストランのトイレよりもまだとのこと。カギがかからないので交代してドアを押さえながら使用した。

Ensenada の街を歩きながら、Ramon が身の上話をしてくれた。なんでも、この街は Ramon の生まれ故郷で、彼の父親はここでタクシーの運転手をしていた。そして彼が7歳の時に妹が病気になり、治療費が父親の給料では払いきれず、家族でアメリカに移住したとのこと。



街を歩きながら Ramon が上機嫌で案内をしてくれた。週末でもあり米国からの観光客も多く、昼間の治安は比較的安全。町全体が観光地、Giftshop などがひしめいていた。Ramon が、自分が子供の頃と比べると、この街はずいぶん変わったと……。港町でもある Ensenada は海産物が美味しい。特に、屋台で食べたシュリンプとクラムのカクテルの味と鮮度は抜群だった。食べる前に Ramon がメキシコでは食べ物に注意、特に生ものほと言いながら、メキシコ人が食べているから大丈夫……。本当か？運良く全員無事だった。

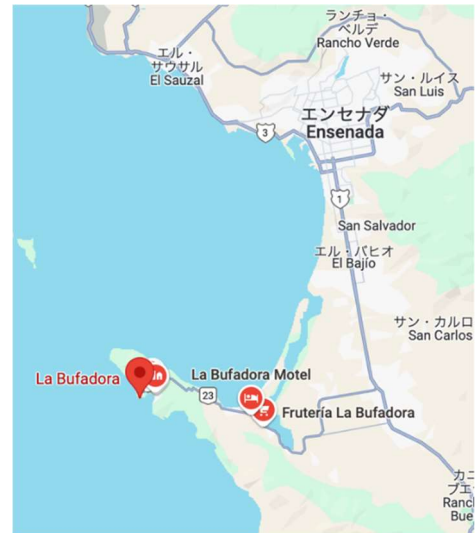


レストランの屋上で、景色を見ながらタコスを食べた、この街の食べ物は美味しい。しかし、Ramon のアドバイス通りトイレは最悪だった。



海と陸の見える、屋上にあるレストラン

Ensenada で昼食の後、車で1時間ほど先にある La Bufadora へ。日本でいえばさしずめ東尋坊のような所。岩のV字がたの裂け目に波がぶつかり、波がとてつもなく高くしぶきをあげる観光地。ここも東尋坊と同じように、土産屋が並ぶ。



Ramon がメキシコで買い物をするときには、絶対に表示価格で買ってはいけないと、交渉が必要だと何度も大きな声でアドバイスしてくれた。私も灰皿を土産に、7掛けほどで買ったと得意げに話すと、Ramon がまだまだ値切れたはずだとしつこい。所が、Ramon が我々家族にと、買ってくれたメキシコの甘菓子、3ドルもしたとぼやき、こんなものが3ドル、3ドルと大声でくどい。最期には、値切る前に買うと言ったからマズかった、と反省していた。Ramon はかわいいヤツだなと苦笑。



お土産屋の並びに薬屋



Ramon が買ってくれたメキシコ甘菓子

メキシコの観光地には薬屋が多い、いずれも米国人観光客向け、米国では処方箋がないと買えない薬が安く売られている。バイアグラ、痛み止め、ただし本物かどうかは？



ある店でローレックスが目に入った。もちろん偽物、値札には65ドルとあった。Ramonとお揃いで買うことになり、Ramonがスペイン語で、2つ買うから合計で70ドルにと交渉した。店主は無理だということで、我々は店をでた。すると予想どおり店主が追いかけてきて、合計80ドルとなって交渉は成立した。

Ramonはアメリカで買ったなら200ドル以上だと大喜び、それから私の帰国まで毎朝、私がお揃いのローレックスを付けて来ているかとチェックされた。そして、これも毎朝Richard、Edら集めて、いつものように大声と大げさなジェスチャーで自慢、よほど40ドルのローレックスが嬉しかったようだ。



帰路は、国境沿いの道をティファナまで走る、道の左側がアメリカ、右側がメキシコ領。アメリカ側が広々としているのに対して、メキシコ側は丘の上まで小さな家がゴチャゴチャと密集している、きれいで広々としたアメリカとは、大きな格差を感じた。



米国のイミグレーションの前では帰国する車が長蛇の列、乳飲み子を抱えての土産売り。Ramon は我々に目を合わすな、絶対に金をやるなど言いながら、自分では彼らに小銭を渡していた。子供たちが路上で遊んでいる、とても危険。Ramon にあの子ども達が事故に遭ったらどうなるのかと聞くと、警察は子供が車に轢かれても何もしないと・・・道路にいるのが悪い。

さらに、Ramon が続けた「この国境を越えるだけで豊かな生活ができる。誰がそれを止められるのか！」

待つこと1時間半、やっと国境へ
国境を抜けると景色は一変し空気も澄んだようだ、一同おもわず
「Wow, we are back to US!」
と笑顔で歓声をあげた。

もちろん、Irvine に戻ってから日本焼肉「Anjin」（Angels 長谷川投手、松井選手、イチロー選手
ご愛用の店）で Ramon にご馳走したのは言うまでもない。



別れるときに、Ramon がメキシコで買ったガラガラヘビ入りのテキーラボトルをプレゼントして
くれた。

本当に、いいやつだ。

To be continue 次号へ続く

お楽しみいただけましたでしょうか？

JRECO 通信は不定期刊行ではありますが、次回もご期待願います。

JRECO 通信のバックナンバーはホームページに掲載中

https://www.jreco.or.jp/jreco_news.html